

会 議 録

1 会議名

令和3年度第2回小林古径記念美術館運営委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 令和3年度事業の経過報告（公開）
- (2) 令和4年度の事業計画（公開）
- (3) 今後の美術館事業に対する意見徴収（公開）

3 開催日時

令和4年3月28日（月） ※書面開催

4 開催場所

—

5 傍聴人の数

—

6 非公開の理由

—

7 書面会議に出席した者の氏名（敬称略）

- ・委員：高橋委員長、五十嵐副委員長、大塚委員、川崎委員、野田委員
- ・事務局：小林古径記念美術館 宮崎館長、笹川副館長、市川主任学芸員

8 発言の内容

(1) 令和3年度事業の経過報告

(大塚委員)：

日本画、彫刻、横断的なテーマ「白の世界」等、様々な企画展を開催していただき、鑑賞する機会を与えていただいたことは大変有意義だった。

関連イベントについても、ギャラリートークをはじめ、音楽や和菓子、料理、ワークショップ等々、多様な市民の指向を考えて設定してくださり、参加された皆さんにとっては美術館に親しむとてもいい機会になったのではないのでしょうか。

職員の方々の調査研究、講師、執筆等の活動も精力的に行われている様子で素晴らしいと思います。

(川崎委員)：

コレクション展「白の世界」の開催時期について、会期が1月～3月13日とまさに降雪の多い時期での開催でしたが、そういう時期こそ美術館には「色」を見に来たいと願うのではないかと思います。(新潟県民の食器は派手だと昔よく聞きましたが、外が白の世界だからせめて食卓で色を見たいという心理が表れているように思う。)雪の降る季節に美術館で「白の世界」をテーマにするのは少しナンセンスな様に感じました。

(野田委員) :

教育ボランティア制度の導入を考えてほしい。もっと市民参画の活動をしてほしい。

(事務局) :

令和4年度については、「富岡惣一郎展」のイベントの一つとして「ホワイト茶席」を開催し、ボランティアの方から茶席を開催していただきました。気軽に美術館活動に参加できるような事業を計画したいと考えています。

(五十嵐委員) :

入館者数について、県内外、年齢、リピーターか否かなど、分析することはできないでしょうか。以前からその件については課題であると話題にしていますが、改善の予定はありますか。今後の計画とともに教えてほしいです。

利用者の反応が見える資料(アンケートなど)はないでしょうか。美術館の事業(市民サービス?)を見直す際に重要な資料だと思います。収集していない、公開しないのであれば、その理由についても教えてほしいです。

(事務局) :

来館者アンケートを行っており、集計したものを次回の委員会でお示しします。

HPやFacebook、ポケット学芸員など、ソーシャルメディアを用いた試みが、昨年よりもより積極的になされていると思われませんが、ほぼ言及されていません。(フォロワー?アクセス?数等)が、コロナ禍でも美術館を楽しめる有益な取り組みとしてきちんと成果を示し、次年度(予算獲得)につながるようにしたほうがいいのではないのでしょうか。

(事務局) :

SNSによる発信は今後の情報発信として有効と考えております。現在、当館のSNSを使った情報発信はFacebookを使用しており、アクセス数やフォロワー数についてはデータがありますので、次回の委員会でお示しします。

(2) 令和4年度の事業計画

(大塚委員) :

地元で根差した企画展が多く、市民が親しみをもって鑑賞できる内容だと思います。また、若年層への働き掛けもあって工夫されていると感じます。「かわいい美術」の高校生キュレーターがどんな活躍をするか楽しみです。

(川崎委員) :

令和5年1月～「かわいい美術」は降雪時期に視点を改めてポップで明るく元気な若年層向けの企画でとても良いと思います。大雪で、家に缶詰めになりがちな地元民の集客が見込まれるのではないかと思います。

(野田委員) :

齋藤先生の展示については、身体障がい者等のハンディキャップを持った人の利用を促進するようにしてほしい。そのような方にも親しみやすく、わかりやすい展示を工夫してほしい。

(事務局) :

「齋藤真一展」では瞽女を描いた作品も展示します。新潟県立歴史博物館の協力により、目の不自由な方を対象とした作品鑑賞など、障がい者の方からも美術館にアクセスできるようなイベントを行うこととしています。

(五十嵐委員) :

来年度の事業内容では、古径作品の展示がないように思うのですが、「かわいい美術展」等での展示が企画されているのでしょうか。または常設展のみでしょうか。

(事務局) :

令和4年度については上越市ゆかりの作家の生誕100年の節目を迎える作家を優先的に取り上げ、古径作品については通年で企画展と併設している古径記念室での展示といたしました。また、令和5年は古径生誕140年の節目の年にあたり、展覧会を開催する予定であるため、令和4年度はその準備に充てております。

作品収集、調査等の計画・予算はどのようになっているのか教えてください。

(事務局) :

作品収集及び調査については予算化されていません。計画的な学術調査等は、現在行っておりませんが、展覧会開催準備を通じて調査研究を行っております。

目標入館者数について、来年度の計画ではほぼ一律 5000 人となっておりますが、算出の根拠を教えてください。また、R3 の実績からみると、従来のみでは目標入館者数の達成が難しいと思います。計画段階とはいえ、学芸員のギャラリートーク等の減（11 回→7 回）、イベントも例年より少ない中で、目標数を達成する施策があれば教えてください。

（事務局）：

次回の委員会の際に入館者数の算出根拠についてお示しします。

事業内容に、イベント・サービスの「どようワークショップ」、「よちよちタイム」他について記載されませんが、実施予定がないのでしょうか。実施しないのであれば、廃止した理由について教えてください。

（事務局）：

「どようワークショップ」及び「よちよちタイム」については、令和 4 年度も継続して実施します。

高校生を対象にした取り組みは、新しく面白いと思います。一方で、小中学生向けの取り組みについての計画を教えてください。「ヨリミチ図工室」他の代替案、また、美術館から離れた地域の市民に対するサービスについて、検討されているのであれば、教えてください。

（事務局）：

当館では、令和 2 年の開館以降、展覧会に関連させたイベントを開催しており、未就学児から大人まで市内全域を対象として展覧会の理解を深められるような活動を行っております。今後も展覧会に関連させたイベントを継続していきたいと考えております。

(3) 今後の美術館事業に対するご意見等

（大塚委員）：

これまでも話題になったことかもしれませんが、手狭な展示スペースについては何とかならないものかと思います。可能であれば、少しでも美術館を拡張することができれば、多くの作品をより伸び伸びと展示できると思います。

(川崎委員) :

2月11日のキャンドルナイトは恒例行事にしてほしいです。

(事務局) :

令和3年度のキャンドルナイトについては、新型コロナウイルス感染症の急拡大によって、残念ながら中止とさせていただきます。冬を楽しめる行事であるとともに、2月11日は古径の生誕日でもあるため、今後も継続して実施していきたいと考えています。

(五十嵐委員) :

①イベント・サービス等について、様々なかたちで試みているのは資料から伺えますが、成果・課題が示されていません。加えて、参加者アンケート等（意見・要望）の検討も行われていません。これらがなくては、イベントの実施・廃止を、無計画におこなっているようにもみえてしまいます。

②出前授業、資料貸出等についても①と同様です。別の資料なのか、行っていないのか、その理由とともに伺いたいです。来館者数に直接現れないものですが、成果を公開することで、当美術館の設立目的の一つである「上越市の美術文化の発展」に寄与していることを、市民に示すことになるのではないのでしょうか。

③調査研究事業についても①と同様です。別の資料なのか、行っていないのか、その理由とともに伺いたいです。

②でも述べましたが、当美術館の設立目的の一つである「小林古径及び上越市にゆかりのある美術作家を顕彰する」ことに寄与するものとして、市民に示すことになるのではないのでしょうか。また、収集保管事業についても同様です。

④①～③で述べているように、美術館の成果を示すことで市民からの信頼を得るだけでなく、今後の課題を確認し、次年度以降の事業計画を行う（見直す）ことが可能です。そのためには、適切な資料を収集し、公開する必要があるのではないのでしょうか。

(事務局) :

資料の作成内容について、より詳細に作成するよう委員からご指摘を受けましたので、次回の委員会開催時に資料をお示しいたします。

【その他ご意見等】

(大塚委員) :

一般市民がもっと気軽に親しめるよう、40人乗り美術館バスを用意し、希望する幼保、

小中高等学校や町内会などから人を運んでくるようにしては？

感染症の拡大が収まれば、近県への宣伝活動を強化して来館者を増やすようにできると思いますが、もう既に行われているかもしれませんが、今のうちに情宣活動を強化しておくといいかと思います。

(五十嵐委員)：

①協議会資料に、展覧会事業～入館状況の報告と、来年度の企画展の計画のみで、計画達成度、成果、課題他がなくて、よいのでしょうか。(他館はある)

②①に加え、美術館中長期計画や前回(昨年度)の議事録と照らして、計画の達成状況や今後の計画を協議するのかと思っていました。今回の書面開催において、何を協議し、承認するのか、どのような解答が求められているのか不明です。

③国内外での博物館・美術館をめぐる議論や、ウクライナ情勢やコロナ禍等現在の社会の実状を鑑み、博物館・美術館がそのあり方を問うなか、小林古径記念美術館が博物館・美術館に求められている幅広い役割をどのように担い、社会的課題にどのようなかたちで貢献しようとしているのかが、この報告書(次年度計画)からは見えてきません。資金・人員等の不足は理解していますが、「美術文化の発展」を目的と掲げる公立美術館として、また、現代社会の求めに応える館のあり方を少しでも示してほしいです。

(事務局)：

館の運営に参考とさせていただくとともに、世界情勢等の大きな課題については必要に応じて次回以降の委員会の議題として挙げさせていただきます。

9 協議結果

議事内容について委員多数より了承を得る。

10 問合せ先

教育委員会文化行政課小林古径記念美術館 TEL：025-523-8680

E-mail：kokei@city.joetsu.lg.jp

11 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。